

学生のプレゼンテーション能力の向上

背景・目的

作品制作発表や演奏、研究発表のすべてを広い意味でのプレゼンテーション能力ととらえ、学生の総合的なプレゼンテーション能力の向上を図る。できる限り多くの学生にプレゼンテーションのための準備と個人指導、発表の機会を与え、実践的な取り組みとする。また、上級生の発表にスタッフとして参加することにより、下級生に対しても客観的なプレゼンテーション(聴き手との意思疎通)への意識開拓の機会とする。

実施内容

文化系3年生の作品発表(実技演奏を含む)、研究発表と、4年生の卒業研究発表に加え、今回の特色的な内容として、新任の太田峰夫准教授による模範発表を行った。準備は1月から開始し、それぞれ発表する学生が担当教員の指導のもとで準備を進め、リハーサルを繰り返した。発表本番の日時は2014年2月7日、仙台エルパーク ギャラリーホールで行った。



聴衆は約50名。アンケートの結果などもフィードバックして、発表の成果を検証し、今後の礎とした。



結果及び考察

ひとりひとりの発表については、まず、自分の研究が何であったのか、自分が何をしたのかという本質的な確認に始まり、限られた時間の中で、何をどう効果的に示して行くのかを考えながら、パワーポイントデータやナレーション原稿を作っていた。リハーサルにおいては、立ち姿、活舌、間の取り方、呼吸のおき方などまで細かく指導した。結果としてそれらの準備が生きたプレゼンテーションとなり、学生の研究内容を初めて聞かれたお客様にも、内容の濃いアンケートご回答を頂いた。

太田先生の模範発表については、お客様はもとより学生達自身が食い入るように聞き入り、発表資料の作り方、話の運び方、まとめへの道筋の立て方や、印象の残し方について、おおいに学んだ。

生のお客様の前での発表は、学生にとって最も生きた勉強の場であり、そこへ至るプロセスと、事後の検証から学べることは非常に多い。また、上級生から下級生へと学びを受け渡すこともできる貴重な機会である。3年間本教育推進研究で継続することにも、おおいに意義があると考えている。